

春分 春分の日 (3月21日)

春分は立春からはじまる二十四節気の一つで、四番目の節気にあたります。春分の日には太陽が真東から登り、真西に沈みます。そして昼と夜がほぼ同じ長さになります。日本では古来この頃に農耕始めの祭りをしていたそうです。また「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、だんだんと過ごしやすい季節になっていきます

お彼岸とお盆は日本の国民的な行事ですが、正式には「彼岸会(ひがんえ)」と呼ばれる仏教行事がもとになっています。お彼岸は春分の日と秋分の日を中日とする前後三日間の合計七日間をいい、国民の祝日に関する法律によると、春分の日は自然をたたえ生物を慈しむ日、秋分の日先祖を敬い亡くなった人をしのぶ日と定められています。

お寺の歳時記

春のお彼岸



萬松寺新聞 The news of Bansho-ji temple [Hakubi report]

また彼岸とは「悟り、涅槃の境地」を意味し、煩惱と迷いの世界である「此岸(しがん)」から悟りの世界「彼岸」へ到達するために、修行をする期間でもあります。彼岸の入りには、家の仏壇をきれいにし、季節の花、初物、彼岸団子、春には牡丹餅(ばたもち)、そして秋にはお萩(おはぎ)などを備えましょう。そして祝日でもある春分の日には、家族そろってお墓まいりをして、お寺で開かれる彼岸法要にも参加しましょう。

春分・秋分の日には法要をするのは、昼と夜の長さがほぼ等しいことから、仏教の「中道」の教えにちなんでいるなど諸説あります。彼岸は先祖をしのび、自分が今ある事に感謝し先祖を供養するとともに、自らも極楽浄土できるよう精進する仏教週間でもあります。

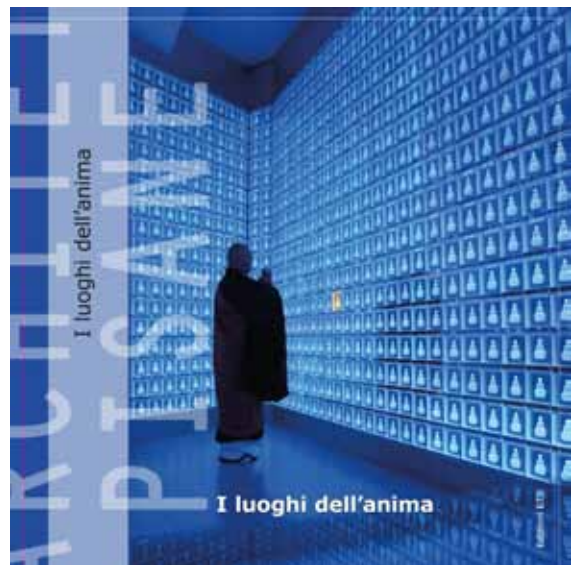


ぼたもち(牡丹餅)とは、うるち米と餅米を混ぜて炊き、米粒が残る程度について俵状にまるめ、あんをまぶした物。甘味を口にする機会の少ない時代にはごちそうであり、来客のもてなしや田植えの後の寄り合い、子供のおやつ、また法要の際などに供されました。同じ食べ物、材料の調理の仕方でも呼び名が、ぼたもち(牡丹餅)、おはぎ(御萩)とも呼び、ぼたもちとおはぎとの区別はしだいに薄れてきています。

春―牡丹餅(つばあん) 春の彼岸に、神仏や先祖への供物とされた小豆あんの様子を、牡丹の花に見立てたことからの呼名。●秋―御萩(こしあん) 牡丹餅と同じく、小豆あんの様子を秋の彼岸の時期に咲く、萩の花に見立てたことからの呼名。

雑誌 Architecture Pisane (アルキテットウール・ピサーネ)は、イタリアのトスカーナ地方の斜塔及びガリレオで有名なピサで出版されている建築雑誌。編集部より「魂の場所」、墓地建築を特集する号にて水晶殿を表紙に掲載したいとのオファーを受け、雑誌は今年2月にイタリアにて発売されました。世界の様々な墓地が紹介されている中、特に水晶殿が表紙になったのは、ロベルト・パスクワレッティ編集長が、他の事例にはない素晴らしい美しさを水晶殿に感じたからだそうです。他国の事例が「建築」よりも「伝統的」である事に傾倒する中、伝統の上に建築として美しい現代的な解釈をされている水晶殿に大変感動されたとのこと。遠くイタリアから、建築という視点で水晶殿が理解された事に驚きましたが、同時にうれしい出来事でした。

雑誌 Architecture Pisane (アルキテットウール・ピサーネ)は、イタリアのトスカーナ地方の斜塔及びガリレオで有名なピサで出版されている建築雑誌。編集部より「魂の場所」、墓地建築を特集する号にて水晶殿を表紙に掲載したいとのオファーを受け、雑誌は今年2月にイタリアにて発売されました。世界の様々な墓地が紹介されている中、特に水晶殿が表紙になったのは、ロベルト・パスクワレッティ編集長が、他の事例にはない素晴らしい美しさを水晶殿に感じたからだそうです。他国の事例が「建築」よりも「伝統的」である事に傾倒する中、伝統の上に建築として美しい現代的な解釈をされている水晶殿に大変感動されたとのこと。遠くイタリアから、建築という視点で水晶殿が理解された事に驚きましたが、同時にうれしい出来事でした。



明るい光が照らす納骨堂「水晶殿」は2009年、本堂3階に設立。「今まではお参りをし先祖に戒められるという考えがあったが、元気をもらうというスタイルであってもいいのではないか」との住職の想いもあり、このような新しいスタイルの納骨堂がつけられました。

万松寺駐車場 料金改定のお知らせ
2014年4月からの消費税引き上げ(5%→8%)および電気料金の値上げに伴い、月極料金(改定後)全日31,000円/月上18,500円/平日15,500円と二四時間打ち切り料金(改定後)平日1,100円/土日祝1,500円の値上げをお願いさせていただきました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



万松寺駐車場&万松寺パーキングがさらに便利に!

駐車場精算機でクレジットカードが使用できます!

カードを入れるだけサイン不要の簡単精算

楽Edy タッチするだけで簡単精算! 電子マネー「楽Edy」も使えます!

24時間 年中無休

★24時間最大 (平日:1,000円 土日祝:1,400円)
※2004年4/1より⇒平日:1,100円 土日祝:1,500円

●昼間(8:00~20:00) 100円/15分
●夜間(20:00~8:00) 50円/30分

【お問合せ】 052-251-4543 (9時~18時)

■旧券の交換は管理事務所(万松寺ビル北館1階)または万松寺境内の受取へ。

ご祈祷・供養は 萬松寺

◆十一面観世音菩薩: 先祖供養、水子供養
◆身代り不動明王: 厄除け、無病息災、身体健全 病氣平癒、災難消除
◆白雪稲荷: 商売繁盛、家内安全

各種ご祈祷を受け付けております。
ご祈祷の受付は午前10時~4時半まで。

◆毎月28日はお不動さんの縁日
午後六時~、境内にて織田信長公ゆかりの由緒を伝える「身代り餅つき」が行われ、参拝客の方々に振舞われます。

からくり人形『信長』は午前10時~2時間おきに毎日5回上演しております。雨天強風の際は上演されません。

亀嶽林 萬松寺
お問合せ TEL 052-262-0735

織田信長ご焼香事件

信秀公葬儀と信長

萬松寺は織田信長公の父・信秀公によって織田家の菩提寺として開基されました。

信秀公の葬儀は菩提寺である当山で執り行われ、その時に起こった『ご焼香事件』は信長が「うつけ者」と呼ばれる元となった事件です。またこの事件は舞台やテレビドラマにのせられる事も多い、有名な事件です。

寄せて来るような、体の不調を感じ始めていた。そんな矢先の天文二十一年（一五五二）三月三日、信秀公は突然の病で亡くなる。享年四二歳であった。

信長、父の位牌に
抹香を投げつける

信秀公の葬儀は自らが開基した萬松寺で盛大に営まれる事になり、三〇〇人を超える僧侶らが読経する中、中央には住職大雲永瑞大和尚、そして親族は土田御前（信秀の正室、信長の母）濃姫、信秀公の側室、弟信行、信包らがずらりと並び、七〇〇名の

信秀公の最期

天文十七年（一五四八）、信秀公は今川家に対する防衛の為、那古野の東方の丘陵に末森城に移り住んでいた。同年、信長の嫁に美濃の斎藤道三の娘・濃姫を迎えるが、この婚姻には今川や朝倉の脅威をともに感じていた信秀公と道三が平和外交に転じたという背景があった。信長に嫁を迎え入れ、弟信行を末森城に呼び入れた頃から、信秀公はまるで戦火の中に過したこれまでの疲れが、まとめて押し

信秀公本像



織田氏は尾張の国の守護代の家柄であったが、信秀はその一族とはいえず、守護代ではなく織田家の支流の支流というべき立場であった。しかし、才智勇にたけた信秀公は、時代の傾向を先取り、実力で尾張の織田を統一したと言われる。当山に現存する木像から見ると、体形はややふくよか。精悍（せいかん）な顔立ちながらも、温容さを兼ね備えた好男子であったようだ。



■右上写真／1973年に放送されたNHK大河ドラマ「国盗り物語」より。信長（高橋英樹）と大雲永瑞大和尚（先代住職・伊藤治雄）。ご焼香事件は、現在でも様々なドラマにのせられる。■左下写真／ご焼香事件は「からくり人形〜信長」の第1幕でも再現されています。毎日10時〜2時間おきに5回上演。（雨天強風時中止）第2幕は幸若舞を舞う信長が再現されます。



家中の人が参列。ところが、喪主の信長がいつこうに現れない…

焼香の時間が近づき、皆が緊張に包まれた時、よくやく本堂に信長が現れた。しかもその姿は「荒くれ者信長」の日頃の姿…茶筌まきの髪、腰に荒縄の帯、長束の太刀と脇差をさし、はかまはなく、葬儀の場には全くふさわしくない服装であった。突然現れた信長は、いきなり抹香を大きく手づかみにするなり、信秀公の位牌に投げつけたのであった。この時、信長は十八歳。この葬儀での振る舞いによって、「信長はうつけ者」だという噂はさらに高まる事になった。

近年、信長のこの行動は近隣諸国に「うつけ者」と油断させる為の計算された行動だったという説もあり、芝居や歴史小説ではこの説をとるものも多い。しかし、緊張と父の死をいたむ気持ちが一度にあふれ涙がこぼれそうになつたものを「形式ばった焼香など出来るか」と抹香をたたきつけるようにして涙をおさえたのが、傍若無人と映ってしまったのではないかという説もあり、こちらは信長の人間味を垣間見れるような話である。

信秀公墓碑



信秀公の墓碑は、織田の提灯がたぐさん下がる地下道を下った先の「奥の院」にあります。

信秀忌

三月三日

毎年三月三日、信秀公の祥月命日には本堂にて追善法要を勤めさせていただきます。法要の後には幸若舞保存会による舞の披露も行います。信長もこの幸若舞を好み、中でも「敦盛」という演目が気に入ってよく舞ったと言われています。

また本年は織田家子孫、茶道有楽流宗家十七代目家元による献茶も行われ、家元自らが信秀公位牌の御前で茶を点て、お供え致します。有楽流は織田信秀の十一男、信長の実弟である織田長益（有楽斎）が創始した茶道の流派。有楽斎（うらくさい一五四七〜一六二二）は、茶の湯の創成期に尾張が生んだ大茶匠であり、現在、愛知県大山市に移築されている、有楽斎が造った茶室如庵（じょあん）は国宝にも指定されています。

▼一般の方の参拝も可能です。